NO．１８　火おこし（マイギリ式）

1　ねらい

・火を扱うことを通して，火の大切さや自然への感謝の気持ちを育てる。

2　活動の計画

（1）活動期間	４月～１１月	
（2）所要時間	１時間	
（3）活動場所	学校キャンプ場野外炊事場	
（4）準備物	〔自然ふれあい館〕	〔利用団体〕
	・マイギリ式火おこし器 ・火きり板固定台 ・火ばさみ ・消火用バケツ ・火きり板：有料（様式７参照） ・火きり杵：有料（様式７参照）	・新聞紙 ・ティッシュ ・ろうそく ・火口（ほくち） ・軍手

※火口を準備できない場合は，ふれあい館で準備可能です。その場合は利用当日乾いた古雑巾をご持参ください。

3　活動について

・マイギリ式火起こし器を使って火おこしをします。※詳細は別紙【火おこしの手順】を参照
・おこした火をとっておくためにろうそく等を使用します。
・１７グループまで活動可能です。
・野外炊事と一緒に行う場合は，薪割りや野菜切りの作業を終了させておき，煮たきの準備が終了してから火をおこし，かまどの薪に点火するようにします。

4　展開例

区　分	内　容
準備・説明 (10 分)	（1）ねらい，火のおこし方の説明，諸注意を聞きます。
活動 (40 分)	（1）班毎に用具を受け取ります。 （2）火おこしを開始します。 （3）炎をろうそくに点火します。
まとめ・片付け (10 分)	（1）火がついた喜びを振り返り，火の大切さ等を考えます。 （2）用具の後片づけをします。

5　活動上の留意点

・軍手や帽子を着用し，やけどに十分注意します。

・周囲に燃えるものがないところや風が吹かない場所で行います。

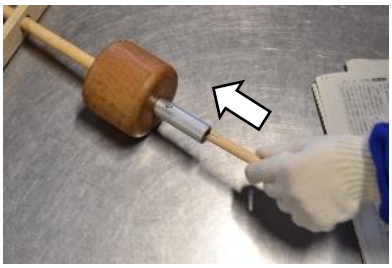
・かまどの薪に点火する場合は，かまどのすぐ前で火おこしを行います。

・火きり板，火きり杵(摩擦棒)は熱くなるのでさわらないよう注意します。

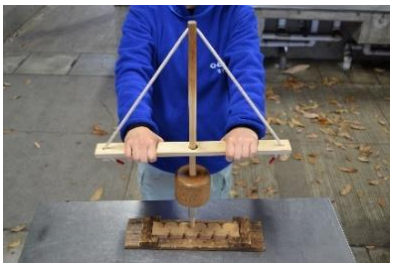
NO.18　火おこし（マイギリ式）
（2022年3月更新）　　オーエンス泉岳自然ふれあい館

火おこしの手順

①火きり杵（摩擦棒）を火おこし器本体の先に差し込む。火きり板を火きり板固定台に設置する。写真のように新聞紙をお椀状にし，火口を入れておく。



②横木を水平にし，本体の棒を回してひもを巻く。



③横木を両手で持って上下させる。はじめはゆっくりと回転させ，煙が出始めたら速度をあげる。このとき，もう一人が火きり板をおさえると良い。

④切り込みの部分に焦げ茶色の粉がたまり，白い煙が出てくる。煙がたくさん出てきて，次第に黒い粉がわきでるようにたまってくる。やがて黒い粉の中に火種ができる。

⑤火種ができたら火口の上に落とし，息を強く長く吹きかけると炎になる。